

# 山梨ライトハウス

第77号

発行/社会福祉法人 山梨ライトハウス 〒400-0064 甲府市下飯田2-10-1

TEL/055-222-3502 FAX/055-233-0124 URL <http://yamanashi-lighthouse.or.jp/>

山梨県盲人福祉センター(点字図書館)  
 電話/055-222-3502-223-1113(貸出専用)  
 青い鳥ホーム 電話/055-252-8994  
 青い鳥成人寮 電話/055-224-5060  
 青い鳥支援センター 電話/055-221-1260  
 青い鳥老人ホーム 電話/0553-26-6631  
 青い鳥ケアホーム 電話/055-235-5566



社会福祉法人 山梨ライトハウス



## 11月は白い杖愛護運動月間です。

以前、山梨日日新聞に「マッサージ不正九・五億円」の記事に目を疑いました。記事は「厚生労働省は、健康保険を使ったマッサージ・はり・灸で事業者が七十五歳以上の患者への治療費を増加するなどして不正に受け取ったケースが三十六府県で約五万五千件約九億五千万円にあがる」と明らかにしています。厚生省が後期高齢者医療制度の発足時にまでさかのぼって調べ

が継続しています。成人達の努力で軌道にのせたものの、盲人の類似した無資格マッサージ業者が増え、視覚障害者の職域を狭めました。今またあん摩マッサージ指圧師養成学校問題であん摩師等法十九条裁判が継続しています。

「私は、青い鳥ホームを盲人だけの主体性のある生活共同体として方向付ける事でした。そのため躰にも特別の力を入れました。そうでなければ盲女子が自立していくのは不可能であると感じたからです。青い鳥ホームでの何年間かの生活は皆さんの人生にどんな意味をもっていたか、改めてお聞きしたい気持ちです。」懐かしいお声です。

話しを戻しますが、青い鳥ホームであん摩マッサージの腕を磨き、自立し開業している方々の一回目の交流会が一九八一年二月十一日に行われ、横浜で療養中の創設者の長谷部先生は声を録音し送ってくれました。



青い鳥ホームでお待ちしています

## CONTENTS

バリアフリーらいふ ..... 1 納涼祭 ..... 6  
 ライトハウスニュース ..... 2・3 運動会 ..... 7  
 今、福祉は... ..... 4 お知らせ ..... 8  
 白い杖愛護運動月間 ..... 5

# 青い鳥ホーム開設60周年

## バリアフリーらいふ

青い鳥ホームは開設から六十年です。当たり前ですが建物の老朽化は進み、災害等には不安を感じる状況ですが、今年治療室をきれいにリフォームし、治療に來られる方々に好評です。

昭和三十三年七月、青い鳥ホームは視覚障害者のあん摩マッサージの就労を目的として開設されました。開設当初は、とても自立してやっていけるだけの収入はなく困難な状況でした。先

ています。高齢化で患者が増え出張料を稼ぎやすい訪問施術を狙って参入する事業者が相次いだことが背景にあるとしています。山梨県では三百十六件ありました。これらは「氷山の一角にすぎない」としています。視覚に障害を持ち自宅で開業している方はなんとも遣る瀬無い思いを抱いたことでしょう。そのことを考えても、あはき法

十九条を守る必要性を感じます。不正請求された膨大な金額が被災地復興に使われていたならなんと残念な気持ちです。

先生の教えを胸に、青い鳥ホームでは患者さんの立場に立ったより良いマッサージを行うため日々努力を怠りません。

ライトハウスでは、視覚障害者の拠りどころとなる青い鳥ホームの六十年の灯をより一層輝かせようとしています。

山梨県をはじめ塩部地区の皆様、山梨県視覚障がい者福祉協会また山梨青い鳥奉仕団の温かいご支援の賜物と深く感謝しております。

青い鳥ホーム

施設長 標 照 二

# ライトハウスニュース

## NEWS NEWS NEWS

### ● 盲人福祉センター

#### 関点協秋期職員研修会

九月七日(木)～八日(金)、さいたま市パレスホテル大宮を会場に行われた「関東地区点字図書館協議会秋期職員研修会」へ参加しました。関東地区の視覚障害者情報提供施設十五施設三十一名の職員が集まりました。

一日目の研修は、国立障害者リハビリテーションセンターから、「視覚障害者のある方の自立訓練」と題し、近年の視覚障害者の状況や、センター利用者の訓練内容、最近のニーズ、新たに始めた在宅高齢視覚障害者に対する訪問サービスなどの紹介がありました。また、夜は交流会へ参加し、各施設職員が情報交換を行うとともに親睦を深めることが出来ました。

二日目は、シナノケンシ株式会社から「デジタル録音読書機の歴史と展望&プレクストーク新製品の紹介」ということで、視覚障害者の読書には欠かせないプレクストークの誕生にまつわる秘話や、時代の変化に合ったプレクストークの開発、そして最新機種である「プレクストークPTR3」についての紹介やデモンストレーションがあり、改善された機能と利用者へ説明する際の注意点について説明がありました。PTR3については、現在メーカーの都合により、販売が延期されていますが、一日も早く発売できるよう努力しているとのことでした。そして最後に「ヘレン・ケラーが心の支えとした日本人」と題し、元立正大学教授より、



研修の様子

どんな時も決して笑顔と感謝を忘れないヘレン・ケラーと塙保己一についての説明がありました。この研修を通して学んだことを利用者サービスの一層の向上に役立てていきたいと思えます。

### ● 青い鳥老人ホーム

#### 『敬老お祝い会』～音楽の秋～

「多年にわたり社会に尽くして来た老人を敬愛し、長寿を祝う日」敬老の日を老人ホームでは大切な行事としお祝いしています。今年も、可愛い子供たちの声を届けたいとの思いから、石和にある(社)わかば福祉会わかば保育園の



園児の皆さんから歌のプレゼント

年長さん十七名を招きました。「富士山」「むしのこえ」「とんぼのめがね」懐かしい三曲を聞きその歌声に思わず「上手」と言う声が聞こえたり、口ずさんだり、涙を流したりしていました。最後の曲は「肩たたき」の歌、園児の皆さんから肩たたきのプレゼント！小さな手による肩たたきなどの利用者さんも満面の笑みを浮かべていました。緊張していた園児の皆さんも利用者さんの喜ぶ顔を見て誇らしげでした。



職員によるハンドベル演奏



素敵な歌声と楽器の音色にウットリ

園児による合唱の後は、深澤芳次さんはじめ有志の方々によるフルートやチェロ、ハーモニカ等の演奏会。柔らかな音色は秋を感じさせるものでした。昼食は、皆さんの大好きなお寿司を頬張り、午後は職員による余興です。今回事務所の職員は何度も練習を重ね練習の成果をいかになく発揮!!ワーカー室&医務室は落語「饅頭怖い」を朗読にて熱演。厨房職員は、自慢の歌声を披露と各部署趣向を凝らし敬老の日をお祝いしました。来年も再来年もいつまでもいきいきと元気に過ごして欲しいという願いを込め、今年の「敬老お祝い会」を終えました。

### ● 青い鳥ホーム

#### メンバーの奉仕活動

青い鳥ホームでは、九月十八日から十月七日までの約一ヶ月間にわたり、無料マッサージ治療を実施しました。この事業は、敬老の日の行事の一環としてホームの開設当初から続けられているものです。日頃お世話になっていきます近隣の方々そして塩部地区自治会の皆さんへの感謝の気持ちを含めて無料のマッサージ券を配布させていただきました。今回は視覚障害者の図書作り、また交流行事その他多くのご支援をいただいています。青い鳥奉仕団の方々にも無料マッサージ券を配布させていただきました。ホームの皆さんは「ぜひこの機会に肩のこりを改善してください」と話しています。

また、ホームの皆さんは甲府市鍼灸マッサージ師会のメンバーでもあり福祉センターなどへマッサージの奉仕活動も行っています。

十一月山梨ライトハウスは、白い杖愛護運動月間がはじまります。広く県民の皆様へ視覚に障害を持つ方々へのご理解とご支援の啓発運動が行われます。その一環として青い鳥成人寮の前庭で福祉祭りが開催されます。その折にも無資格者の類似したマッサージとは違うところを知っていただくためのマッサージ体験を行います。

青い鳥ホームでは、心を込めてマッサージ治療をさせていただきます。先ずは電話でご予約をお願いいたします。電話〇五五二二五二八九九四 理療指導員(酒井)まで。



青い鳥ホームでのマッサージ

● 青い鳥支援センター

センター自慢

支援センターの男性常勤スタッフは、皆なんでも出来ちゃうスタッフばかりです。運動も、アウトドアも、お笑いも(笑)各行事でその腕前を発揮してくれているのですが、日常の支援でもきめ細かな点に気付き支援を行ってくれます。ちょっとした料理はお手の物！掃除、洗濯等も丁寧に行うので、訪問しているご家族からは安心と好評を頂いています。もちろん女性スタッフも機転が効くのでケアマネさんからの信頼も厚いのです。



初イベント ボーリング

つながっている！利用者様にも認めてもらえていることがこれまた励みになりました！

そんな支援センターの魅力はなんだろうと考えました。それは、コミュニケーション能力の高さです。困ったこと、嬉しかった事、意見がぶつかることがあってもすぐに話し合える環境。スタッフ間の信頼関係が生きてこそ多くの利用者様に良い支援ができる！日々仕事をしていてそんなありがたさを感じています。センターでの仕事が楽しいから、よい支援



みんなで昼食 おいしいね



紙漕ぎ体験

● 青い鳥ケアホーム

山梨県障害者芸術・文化祭

九月一日、山梨県障害者芸術・文化祭に出掛けました。青い鳥ケアホームでは三名が日中、青い鳥成人寮へ通っています。その中の一人、Kさんは陶芸班に所属し、時々睡魔に襲われコックリコックリしてしまう事もあるようです。ランプシェードを出展!!そんな情報を耳にし、皆で出掛けました。

先に防災新館へ行くと、マリナーズさんが綺麗なハーモニーを奏で、優しく時には力強く唄い上げていました。踊るポンポコリンの曲が流れると自然に手拍子し、身体が動き口ずさんでいました。

次に作品が展示されている山交へ歩いていきました。他の施設の人達とすれ違いざま気持ちよく挨拶を交わしながら進んでいくと、甲府駅前の整備が終わってすっかり綺麗になっており、浦島太郎になった気分で見たり右を見たり、広くなった歩道を皆で闊歩しました。山交の会場では、「僕達がある。」「何処を担当したの?」「手かな?」などと会話も弾みます。綺麗に猫の型抜きがされたKさんのランプシェードも中央に飾られています。



僕が作ったよ!

「皆、頑張ったね。帰ったら報告会だね。」と言いました。山交を後にしました。

● 青い鳥成人寮

家族旅行

ご家族参加での旅行は約二年ぶりであり、旅行が決まってからは利用者さんから「どこ行くかな」「宴会があるかな」等、



観光列車に乗りながら

大きな楽しみになっている声が多く聞かれました。今年度は日帰り組、一泊組共に静岡県へ出掛けていきます。日帰り組がお茶摘み、遊覧船。一泊組はお茶摘み、フェリー乗船、観光列車など、二組とも利用者ご家族がゆったり楽しめるコースとなりました。皆さんお茶摘みは初体験でありましたが、思い思いに葉を摘み取り、お茶畑ならではの茶葉の天ぷらを美味しく食べ、日帰り組は急な雨に見舞われ遊覧船の乗船が心配されましたが、無事に乗船でき、のんびりと清水港を見渡しています。

一泊組のフェリーでは少し酔ってしまいう方もいましたが海を見ながらいる姿もあり船旅を満



沢山摘んでね



一泊組(茶畑にて)



仲良く茶摘み



日帰り組(遊覧船にて)



楽しい宴会



海なし県民、海に感動!



心地よい風を感じて

喫しています。ホテルでは海を見ながらの露天風呂、宴会では美味しい料理をお腹いっぱい食べ、自慢の歌声を披露するなど、大いに皆さん楽しまれています。

観光列車では海を見渡しながら、ゆったりと電車旅をしてから成人寮に帰ってきました。久々の家族旅行となり、「楽しかった」「船が良かったね」等思い出もたくさん出た様子でありました。

# 同行援護従業者養成研修を開催

青い鳥支援センター 主任相談支援専門員 坂本 道穂

平成二十九年九月十日(日)より十二日(火)までの三日間に渡り、同行援護従業者養成研修を実施させて頂きました。平成三十年三月で、同行援護従業者の資格要件のみなし期間が終了となる為か、今年度は多くの受講生が参加されました。

三日間、講義・実技と充実した内容での研修計画を組み、座学の合間に実技講習を入れる等工夫を凝らした研修を行う事が出来ました。一人でも多くの受講生に同行援護の基礎技術が身に付いて欲しいと考え、研修期間中もその日の反省と翌日の計画を確認し、身のある研修となるよう試行錯誤しました。

その甲斐があり、初日に比べ受講生の皆様のレベルは一日目、三日目と上達したように感じられました。受講生の皆様から「アイマスク体験ができ貴重な時間でした」「視覚障害者への理解が深まってよかった」「ガイドするにあたり、情報提供は大変重要だと感じた」「見えない不安さ、情報を伝えるむずかしさを感じた」「基本について



階段のガイド

色々と学べ、現場で役立てていきたい」等、嬉しい感想も頂きました。

しかし、山梨県全体を見ると同行援護に対する意識、技術共にまだまだであると感じており、今後も研修担当をしている講師共々自信を持って送り出せる様努力を重ねて参りたいと思います。今回ご参加頂きました方のご活躍を期待すると共に、ご協力頂きました講師の方々には心より感謝しております。ありがとうございます。ございました。



資格の授与



盲学校のご協力によりバス乗車の実技



講義の様子

# 新しいチャレンジ

青い鳥ホーム 指導員 酒井 夏美

私は二頭目の盲導犬の引退をきっかけに今度は夫と同じ北海道盲導犬協会からの貸与を希望しました。夫婦で盲導犬ユーザーの私達が外出する時は、道に詳しい夫の後ろに私がついて歩きます。しかし、道路の右側も歩ける夫に対し、左側しか歩けない私は度々夫についていけず、不便さを感じることが多くなりました。実は北海道盲導犬協会以外のほとんどの協会では盲導犬は視覚障害者の左側につき、道路の左端を歩くように訓練されています。そのため、歩道のない道路では右側を歩くことは難しいのです。「道路の右側も歩けたら？」それが私の新しいチャレンジの始まりでした。これは安易なことではないと思います、北海道で基本を訓練した後、山梨での訓練も行いました。頭では分かっていたつもりでしたが、約二十年間体にしみついた犬への指示語、コントロールの仕方、犬の動きも違い、北海道での訓練は大変なものでした。山梨に戻ってきてからもいきなり環境の変わった新パートナーのチロルが不安定になり、なかなか思うように歩いてくれません。私も毎日歩いていた通勤路でさえ白杖歩行の



酒井さんとチロル

時のように緊張してしまい、余計にチロルを戸惑わせているようです。お互いがまだ信頼しきれずにぎこちない歩行ではありますが、毎日一喜一憂しながら、日々パートナーとの絆を深めています。最後に温かく見守ってくださいているすべての方々に感謝申し上げます。どうぞこれからもよろしくお願いいたします。



北海道盲導犬協会の盲導犬歩行指導員の田中さんと

# 第63回白い杖愛護運動月間実施要綱

## 1 目的

この運動は、県民の一人一人が目の不自由な人たちを正しく理解し協力するとともに、目の不自由な人たち自らも積極的に自立し、進んで社会活動に参加することのできる「ユニバーサル社会」の実現を目指す県民運動です。

## 2 主催

山梨県 山梨県教育委員会 社会福祉法人 山梨ライトハウス

## 3 後援

山梨県社会福祉協議会 山梨県市長会 山梨県町村会 山梨県共同募金会 山梨県連合婦人会 山梨県交通安全協会 山梨県公立小中学校長会 山梨県高等学校長協会 山梨日日新聞社 山梨放送 NHK甲府放送局 読売新聞甲府支局 テレビ山梨 山梨県立盲学校 山梨県障害者福祉協会 山梨県ボランティア協会 山梨青い鳥奉仕団 山梨県視覚障がい者福祉協会 山梨県眼科医会 山梨アイバンク 山梨県タクシー協会 山梨交通株式会社 富士急行株式会社

## 4 実施期間

平成29年11月1日～平成29年11月30日の1ヵ月間

## 5 運動の目標

### ◎安全な移動環境の整備

- ① 目の不自由な人たちは外出するとき、必ず白い杖を持ち、車とすれ違う際には走行音にも気を配り自ら歩行の安全につとめる。
- ② 横断歩道、バス停、駅構内などで、目の不自由な人や他の障害をもつ人たちに積極的に声をかけ必要に応じて協力する。
- ③ 盲導犬の普及をはかるとともに、交通機関、飲食店、食料品店、宿泊施設等へ盲導犬を同伴できるよう啓発する。
- ④ 障害者用誘導ブロック、エスコートゾーン（道路横断帯）、音響信号機、誘導チャイム、点字や音声による案内表示の普及をはかるとともに、歩道に自転車や障害物を置かないよう啓発する。
- ⑤ 目の不自由な人や他の障害をもつ人たちが、バス、タクシー、電車などを安心して利用できるよう環境を整備するとともに、運転者は、道路を横断する人たちに対し徐行、一時停止を守るようつとめる。
- ⑥ 目の不自由な人や他の障害をもつ人たちが、安心・安全な移動を実現するために同行援護サービスの質の確保につとめる。

### ◎生きがいある自立就労支援の拡大

- ① 目の検診や相談活動により、障害の早期発見、早期治療、早期訓練などにつとめ自立への積極性を育成する。
- ② 目の不自由な人たちの鍼灸マッサージ業を守り、無資格者をなくすとともに、ヘルスキーパー（健康管理理療師）、ケアマネジャー、機能訓練理療師など職域の拡大をはかる。
- ③ 中途で目が不自由になった人たちの職場復帰をはじめ、IT機器・情報通信を積極的に利活用した職能訓練等を通じて自立就労の拡大につとめる。
- ④ 生活の自立が困難な目の不自由な高齢者や障害を重ねてもつ人たちが、安心して暮らせる施設の整備をはかるとともに、地域において自立生活ができるよう支援につとめる。
- ⑤ 目の不自由な人たちの緊急時における安否確認・支援ニーズを把握するマニュアルづくり、救災連絡網の組織化など県・市町村における防災対策の強化につとめるとともに防犯対策に関する知識の普及、啓発を図る。

### ◎文化情報サービスのバリアフリー

- ① 障害の多様化や情報通信技術の発達などを背景に多様化したニーズへ対応するため、公共図書館と情報の共有・連

携をはかり、障がい者サービスの一層の充実につとめるとともに、地域におけるボランティア活動の技術向上をはかる。

- ② 県・市町村等の公共機関をはじめ、郵便局、銀行、病院等における各種情報の点字化・音声化などを通じて利用の便宜をはかるとともに、県民に対する点字の普及につとめる。
- ③ 音声パソコン・音響機器・拡大読書器・文書読み上げ装置などを活用し、目の不自由な人たち自ら情報の収集につとめるとともに、これらの機器が日常生活用具として給付されるよう自立支援サービスの充実につとめる。

### ◎交流・啓発活動の拡大

- ① 盲学校、視覚障がい者福祉協会、山梨ライトハウス等、地域との交流を一層推進するとともに、相互の協力関係の輪を広げ福祉思想の啓発につとめる。
- ② 白い杖作文、福祉講話などを通じて児童生徒とのふれあいを深め、「共に生きる」思いやりの心を育成する。
- ③ 目の不自由な人たちをはじめ、他の障害をもつ人たちとのスポーツ、レクリエーションその他趣味活動を通じて県民との交流の機会を拡大する。
- ④ 目の愛護運動を通じて失明を予防するとともに、角膜提供運動を推進する。

## 6 運動月間行事

### ① 白い杖・盲導犬キャンペーン

日 時	平成29年11月1日（水）午前7時30分～8時30分
場 所	甲府駅南口及び北口 他郡内地区2ヵ所
内 容	啓発パンフレットとふれあいの鈴などの配付、広報車による甲府市内での啓発活動

### ② 白い杖福祉の集い

日 時	平成29年11月5日（日）午前10時～11時半
場 所	山梨県立盲学校体育館
内 容	奉仕者知事表彰 白い杖愛護作文・生活体験文表彰 最優秀作文発表

### ③ 白い杖愛護作文・生活体験文募集

募集期間	平成29年7月18日（火）～9月1日（金）
対 象	白い杖愛護作文（県下の小・中・高校の児童生徒） 生活体験文（県下の目の不自由な一般および児童生徒）
表 彰	白い杖愛護作文では各部門ごとに最優秀1編及び優秀5編を表彰する。 生活体験文では各部門ごとに最優秀1編及び優秀3編を表彰する。

### ④ 運動月間の周知

各支援団体、報道機関を通じてこの運動の趣旨及び活動内容を周知し、理解を深める。

第62回白い杖福祉の集い  
（優秀作文表彰式）



甲府駅前での白い杖・盲導犬キャンペーン

# 納涼祭

8月26日、山梨ライトハウス恒例の地域交流納涼祭が催されました。昨年は台風の影響で屋内の開催でしたが、今年は天候にも恵まれて屋外の開催となり、地域の方にも大勢お越しいただきました。

コンサートは、ハワイアンバンドの皆さん。生演奏に合わせて、ライトハウスの利用者さんが唄うという合同企画があり、みんな一体となって楽しんでいました。池田おやなぎ連の太鼓の音色や、池田民謡部の盆踊りは、まさしく夏の風物詩という感じが致しました。

来年も、青空のもとで納涼祭が開催されますことを願っております！



▲販わう屋台



▲ハワイアンバンドの演奏



▲多勢のご参加ありがとうございました



▲おやなぎ連のお囃子  
初の試み「流しそうめん」



▲池田民謡部の方々と盆踊り



▲射的も大盛り上がり



▲どの味がいいかな？



▲浴衣と甚平でおめかし

# 第30回 県下視覚障害者交流秋季大運動会

10月1日(日)山梨県立盲学校グラウンドにおいて、山梨県視覚障がい者福祉協会・山梨青い鳥奉仕団・山梨ライトハウスの三団体による交流運動会が盛大に開催されました。

当日は、秋晴れで、絶好の運動会日和となりました。

入場行進・開会式の後は、いよいよ競技がスタートです。午前の部では、「出た目でリズム」「力を合わせて」「防災訓練」「味覚の秋」「あおとりウルトラクイズ」「綱引き」が行われました。昨年から競技に加わった「出た目でリズム」では、ルールなどに戸惑う事無く、皆さん慣れた様子で、大きなサイコロを転がし、元気よく楽器を鳴らしておりました。「味覚の秋」では、お目当ての果物を目指して猛ダッシュする元気いっばいな姿も見られました。

午後の部では、「けつあつ測定」「鳴物競争」「じゃんけんポン」「福拾い」「紅白対抗リレー」が行われました。美味しいお弁当でお腹が満たされ、眠気が誘う時間帯にも関わらず、目が覚めるような白熱した接戦が多く見られ、両チームより「頑張れ〜。」「行け行け〜。」などの大きな掛け声や歓声も上がり、賑やかな応援合戦も見ものでした。

今年の運動会は、43対26で、白組の勝利という結果となりましたが、赤組の皆さんも精一杯頑張っておられました。両チームの皆さん、本当にお疲れさまでした。



▲「開会式」絶好の運動会日和でした



▲元気な声で「選手宣誓」



▲昨年から競技に加わった「出た目でリズム」



▲「味覚の秋」果物目指して猛ダッシュ



▲「力を合わせて」今年も色々な物を運びました



▲「綱引き」どっちもガンバレ



▲音を頼りにボールを転がす「鳴物競争」



▲今年も白組の勝利!



▲「紅白対抗リレー」今年も白熱したレースとなりました



▲「福拾い」良い物が入ってますように



▲「じゃんけんポン」豪華景品は誰の手に

## 山梨県視覚障がい者福祉協会 福祉部講演会

8月20日山梨県視覚障がい者福祉協会福祉部講演会が「歩行訓練」をテーマに行われました。視覚障害者を対象に行われる訓練の具体的な内容(歩行、点字、パソコン、日常生活動作など)と、訓練を受けるための手続き、事例について紹介があり、質疑応答では活発な意見交換がなされ大変盛況でした。

## 視覚障害者 交流囲碁大会

9月2日山梨県芸術文化祭の一環として視覚障害者交流の囲碁大会が山梨ライトハウス主催で行われました。



真剣な表情で碁をうつ参加者

## 障害者文化展表彰

青い鳥成人寮の利用者(個人2、グループ1)や、甲府市視覚障害者福祉協会の皆さんが成人寮での陶芸教室で創った作品などが入賞しました。おめでとうございます。



奨励賞をとった甲視協井上さんの作品



賞状片手にハイポーズ!



青い鳥成人寮



甲視協のブース

成人寮のブース

## ブラインドサッカー

9月23日ブラインドサッカー-中日本リーグが山梨県中巨摩郡昭和町押越の押原公園人工芝グラウンドで開催されました。



ゴールを決める山梨キッカーズの選手

中島衆議院議員も応援にかけつけました

## 川柳

(九月のライトハウス川柳会から)

浅川和多留 選

ひとことを控え好かれる婆でいる 井口 貞子

曼珠沙華母が呼んでる寺の門 加藤 隆

忘れぬ母と歌った浜千鳥 河口 竹子

丸い月最後の別れ通夜の空 中村 洋子

行く夏が秋の寂しさ連れて来る 細川 一

話し合う道が見えない核世界 花形 幹雄

若手伸び東京五輪期待され 高坂 康平

親離れ夢に向かって一人旅 今村 晴美

幾歳か越えて果てなき里恋し 桑原 梅次

俺よりもペットの猫の非常食 埜村 和美

つまずきが年齢さとし苦笑い 標 照二